

第4回

「大洲市総合計画審議会」・「大洲市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定戦略会議」 議事要旨

日時：平成28年3月22日（火）午後2時

場所：大洲市総合福祉センター

1 大洲市人口ビジョン及び大洲市まち・ひと・しごと創生総合戦略について

【事務局】 説明

【委員】 「教育の振興」に学力・体力の向上に関するKPIが設定されていますが、目標が「中学2年生における学力・体力の値が小学5年生時以上」となっています。中学2年生時点の学力・体力が小学5年生時点を上回ることができないということは無いと思います。目標が弱気ではありませんか。

【事務局】 この目標は、個人の全国における順位を上げるという主旨で設定しています。教育委員会と相談した中で、生徒同士の競争のために学力調査を使うことは正しくないと指摘されています。本来であれば、「全国平均以上」や「愛媛県内で何位以上」という目標もありますが、そういった目標ではなく、個人個人の小学校5年生時点の順位と比べて、中学校2年生時点でそれを上回っていくことを目標にしました。

【会長】 小学5年生時点の目標がありません。主旨は理解しますが、小学5年生時点でも「全国平均以上」といった目標を持つても良い気がします。

【事務局】 再検討しますが、表現が変わらない可能性もありますので、ご了承ください。

【委員】 「子育て支援の充実」に、3世代同居の促進が位置付けられています。具体的な内容は未定ですか。参考意見ですが、多世帯住宅は大きな住宅になりやすく、税金がかかりますので、税負担の軽減等で還元していただくような仕組みがあればと思います。

【事務局】 現在、市として具体的な計画はありません。国では、長期優良住宅への支援制度を拡充して、3世代同居のためにトイレや風呂を複数個所つくる等の場合に、支援を上乗せするような制度を設計していると聞いています。国等の動向を見ながら、市の支援策を検討していきたいと考えています。

【委員】 「観光の振興」について、うかい観光客の目標人数が6,000人となっています。うかいを盛り上げるためには、市の職員や協会などに何らかのノルマを設定し、プレッシャーを与えるような方法が必要だと思います。また、うかいの観光客数が6,000人では物足りないと思います。

【事務局】 市役所ではノルマは課していませんが、うかいに参加しています。また、うかい観光客数が減少傾向にある中で、現状維持を目指すのではなく、増加を目指して頑張っていきたいと考えているところです。ご理解いただければと思います。

【委員】 「商工業の振興」について、「事業承継困難な状態の解消起業数：10%以上」というKPIがありますが、どういう意味でしょうか。また、「空き店舗の活用件数：累計6件」とありますが、これはどういう意味ですか。

【事務局】 1点目については、後継者がいない場合など事業承継が困難な場合に、事業を辞めることがないように、担い手育成等を支援していくものです。事業を辞める母数に対する割合として設定しています。事業を辞めた企業数は、商工会等に相談があったもののみ把握できますが、その数から全体を推計するようなかたちになると考えています。

2点目の空き店舗活用については、今のところ市の支援制度がありませんので、来年度以降、空き家、空店舗含めて支援制度を検討したいと考えています。

【会長】 農業ではブランド化が重要と考えています。

【事務局】 今年度と来年度に竹林整備の補助制度を設けて、今まで生産活動に取り組んでいなかった方でも農業に取り組める環境整備を進めて、乾燥タケノコやメンマの生産拡大を目指しているところです。

【委員】 メンマは、新しく59の団体に生産してもらっています。乾燥タケノコは2年後に目標の数値に届くと思います。椎茸は、現状、安定した生産量にはなっていません。

【委員】 まちづくりや地域活性化で成功している他地域の事例から学ぶことが重要と考えています。審議会委員、関係者、市の方等で現場視察に行くことは可能ですか。

【事務局】 現場視察までは難しいですが、地域で取組まれているような好事例があればそれを調査し、市内への啓発も含めて皆さんに提供できればと思います。

2 第2次大洲市総合計画基本構想について

【事務局】 説明

【会長】 特に質問が無ければ、キャッチフレーズの審議をお願いします。

【委員】 メインのキャッチフレーズはひらがなの「おおず」を使う事で良いと思います。サブフレーズの「みとめあい ささえあう」の主旨が分かりにくいという意見をいただきました。目標人口は平成38年に40,000人とのことですが、この程度で良いと思います。基本目標と施策体系については、施策を絞って26項目にまとめたとの事ですが、分かりやすく良いと思います。

【事務局】 「みとめあい ささえあう」については、合併の際、「新しい大洲市が、肱川を軸とする流域都市として、みんなでがんばっていこう」という想いから定めたものです。合併から10年が経過してイメージが変わっているのであれば、変更・削除することもあると考えています。メインフレーズは基本目標にも関係するところです。ご審議いただければと思います。

【委員】 「きらめき創造」のうち「きらめき」と「創造」が同じ意味に取れますので、「創造」よりもアンケートにある「みんなでつくる」といった言葉を入れることが良いと思います。

【委員】 「肱川」は4つの旧市町村の軸となり、我々にとってアイデンティティになるものです。残してもらいたいと思います。

【会長】 「きらめき創造」は言いにくいところがあります。「きらめきおおず」が簡潔で話しやすいと思います。話しやすく、覚えやすいフレーズが良いです。

【委員】 「きらめくおおず ～個性かがやく肱川流域都市～」が良いと思います。現在のキャッチフレーズは少しくドイと感じます。

【委員】 「きらめく」は、大洲市民の方が輝くという意味だと思います。大洲市は「伊予の小京都」と称されていますので、これまで引き継いできた歴史や文化に関する言葉も入れていただければと思います。

【委員】 キャッチフレーズは端的で誰もが分かるフレーズが大事です。メインフレーズは「きらめくおおず」が良いと思います。サブフレーズは色々な意見がありますが、「肱川とともに」程度の表現としておいて、その後は皆さんに想像してもらうようなかたちでも良いのかなと思いました。

【委員】 メインフレーズを「きらめくおおず」として、サブフレーズは「個性輝く肱川流域都市」が良いと思います。

【委員】 サブフレーズは「みんなでつころう肱川流域都市」が良いと思います。

【事務局】 メインフレーズは「きらめくおおず」で決めたいと思います。サブフレーズは事務局で持ち帰って、次の審議会で案をお示ししますので、またご意見を頂ければと思います。

【会長】 メインフレーズは「きらめくおおず」でよろしければ挙手をお願いします（一同挙手）。賛成多数ですので、「きらめくおおず」で確定したいと思います。

次に目標人口ですが、平成38年に40,000人という案が示されています。よろしければ挙手をお願いします（一同挙手）。賛成多数ですので、「平成38（2026）年に40,000人」で確定したいと思います。

【会長】 次に、基本目標はいかがでしょうか

【副会長】 第1次総合計画の頃から時代が変わっている中で、削除する施策や総合戦略との関連で新たに追加する施策が今後出てくるのでしょうか。今のところは、見やすさの観点から施策体系をまとめただけということですか。

【事務局】 誰にでも分かりやすくなるように、施策をある程度まとめてお示ししています。今後検討していく中で、細かな施策について提案させていただきます。総合戦略で定めた施策についても、総合計画に反映していくことになります。

3 閉会